北海道の幼稚園界

現況とその問題点

重野孝三

「どうして、こんなに幼稚園がふえるんでしょ。」

「幼稚園は、もうかるからでないでしょうか。」

と、いう声が巷間に流れているのを耳にするたび、世間というもののカン違いや、教育の営利事業化を想はないわけにはいかないのは、潔癖すぎるからだろうか。

北海道も、全国の例にもれず、近年著るしい増加をみせている。

明治末期まで　二園
大正末期まで　一〇〃
昭和二十年まで　二六〃
昭和二十二年まで　二七〃
昭和二十四年まで　三一〃

二十二年一園認可、二十三、二十四の両年にわたり、四園認可であったものが、二十五年には五園、二十六年には一四園の認可をして総計五十となっている。

二十六年は、私ども教育行政にあるものを驚ろかせた年で、にわかに認可基準をつくり認可事務の整備を急いだものである。しかも、当時公立二に対し私立は三十六であった。

昭和二十六年に認可した数　一四園
〃　二十七　〃　一三〃
〃　二十八　〃　一二〃
〃　二十九　〃　二六〃
〃　三十　〃　一九〃
合計（三〇、一二、一現在数）　一二一〃

うち、十二月認可の予定のもの、五園の見込である。一寸考えてみても、なぜ急激に増加したのか、教員は充足できるだろうか、教員の養成はどうだろうか、若しそうでなければ、幼児の教育は重大な危期にさらされるのではないかと思うのは当然であろう。

こうした、急激な増加をみたのは、両親の要求があるという事実を、見のがすことができないが、その要求の真の理由は何であ

るか、ということは教育者として、充分考察もし、それに対する手も打たなければならないと思はれる。

幼児の教育は、重要であるというのは、ごく一部の人達、即ち教育専門家の信条であって、両親達にそうした本質がわかってきたからだとは、必ずしも言い切れないだろう。

また、世界の義務教育に対する考え方が、下の年令層にさげられつつあるという傾向も、おそらくは両親達には知られていないだろうから、急増の理由とはならない。

吾々は、子供の教育に、盲目的な熱心度を示すという現実がよくみられるが、明治以来の教育にともなって起った、国民的信条といってよいものがある。なにもかも子供の教育によって、幸福や地位や経済の豊さをかち得ようとする望みである。そして、どこの学校を出たかは、子供の将来の運命を支配する社会構造になっているのは、どうも変だと思ってもこれが日本の現実の姿であろう。この考え方が、幼児の教育まで、伸びてくるのは極めて自然であって、幼児に教育を受けさせておけば、お勉強の競走に優位なスタートを切らせるのでないか、何らかのプラスがあるのでないかという、漠とした考で、幼稚園え幼稚園えと殺到し、たまたま、数年前のように、親子もろとも試験があるというので、おくれをとっては一大事とビックリして、無理でも入園させようとするのは、親の心理であろう。

そのほかに、小学校側で、入学前の幼児教育を行ったり、義務教育を幼児まで下げようという先生達の声に刺戟されていることも一つの理由となるであろう。しかし、もっと世俗的に考えを引下げて、要求の理由をさがしてみると。

1、戦時中に托児所があったが、幼児の管理に骨を折らないで、仕事の能率があがったから便利だった。（農村で）

2、幼児達で楽しそうに保育所に通っているが、自分の子供がおくれをとらないだろうかという不安。

3、隣近所の幼児が幼稚園に通っているから。

4、うるさくて仕事の手足まといになる。幼稚園にやるとおやつ代がたすかる。隣の子に負けたくないから。お行儀や言葉がよくなるから。小学校に入って、とくをするから。天才教育は幼児から。

と、いったような両親の要求が、高まっているが、一方、この声に応じて設立者はどうなっているか。

1、幼児教育だから簡単だろう。施設設備も小資本で事がすむ。

2、幼児の募集に手がいらない。はじめるといくらでも集まる。

3、新聞や人のうわさで、モウカルらしいし、安全な投資だ。（個人立幼稚園の動機は大半これに近い理由である）

4、私立保育所は経営費の関係で、やっていけないから幼稚園に切りかえよう。

5、先生の給料が安いから。

6、高等学校卒業の女の子で間に合うから。

みすぼらしい理由をあげて、意地悪るい見方でもあるが、いたしかたがない。だが、次のような理由が北海道では大多数であることを報告しておきたい。

7、宗教団体即ち宗教法人の事業として、最も適した事業だか

ら。

8、会社鉱山工場等の厚生施設として（五園、外に幼稚園類似の教育を行っていると想像されるもの二十数ヶ所あり）

9、季節托児所が完備して、幼稚園となったもの。

北海道は、増加の途次にあり、まだまだ、百以上はできる予想であるが、現在のところ園児の募集に苦労なく、またそのため次のような幼児教育を根本から破かいするものが、現はれていないことは嬉れしいことである。

10、天才的バレリーナを幼時より養成するために。

11、ヒバリちゃんのような歌手を天才教育で。

12、いわゆる芸事を幼児よりはじめるために。

こんなものが案外、親の夢をかきたてて、俗受けしやすく、全く弱点に喰い入って害毒を流すことになるので、充分警戒を要することと思はれる。

宗教と幼稚園教育

本道の、幼児教育はキリスト教の布教にともなって、教会堂ではじめられたものであるが、宗教の布教のための手段でなく、本質的に幼児教育をねらっていたものである。その後、各宗教団体は独自性のある幼稚園を設立しているが、正しい幼児教育が行はれていることは否定できない。のみならずゆきとどいた教師の愛情、献身的な精神等このましい心づかいがみられている。ねがはくば、更に心理学的に科学的に、努力を傾倒されるならば、完ぺきに近いものがみられるであろう。昭和二十六年十二月三十一日現在の全国宗教主義でたてられている、幼稚園数は、

神道系	四五
仏教系	四一〇
基教系 旧	一八四
新	五七八
合計	一二一七

北海道宗教系幼稚園（昭和三十年十二月一日現在）

神道系	三
仏教系	四二
内、東本願寺一八、西本願寺一一、浄土宗六、真言三、日蓮三、聯合一	
基教系 旧	二四
新	三六
宗教に関係ないもの	二〇

公私立幼稚園一二五のうち、八四％は宗教団体の設立するもので、この数字にはいろいろな意味がふくまれている。

別な見方から、法人と個人業の分類別にながめてみると、

公立	四
学校法人	一七（宗教主義幼稚園をふくむ）
財団法人	一
宗教法人	八七（見込数）
会社法人	五
個人	一二

北海道は、開拓されて九十年であるが、外人によってキリスト

教系の幼稚園が設立されたのは、相当古い年代で、五十年配の卒業生をもっているものがある。明治四十年になって、小樽市に仏教系のものが設立された。

1、幼児で信者になるとか信仰を強制されるとかいうことはないが、二十才代三十才代四十才五十才にいたるまで入信の動機になっているものが意外に多いことに驚くものがあり、もっと深く調べてみると興味深い数字が現はれるのでないか。

2、園児は、両親の宗教と関係のあるところが選ばれる。

3、都市で、幼稚園の適地としてわずかに残されている土地は、寺院教会の境内地のみといえる位、草花竹木の自然環境が揃っている。教育環境としては絶対的に優位に立っている。

4、宗教団体の、幼稚園は施設設備が急速度に改善されて、伸びているのは、信者の応援ということもあると考えられる。

5、古いからにたてこもり、新しい教育のとり入れ方がおそいことと、科学的方面の設備や教育に手ぬかりができやすいことは、特に注意しなければならない。

6、会社、工場等の厚生施設として、M炭山の一例を紹介したいと思う。社宅の中心が広いグランドになっており、その一角に幼稚園が建てられて、毎日二時頃に幼児が帰ると、小学校児童次に中学高校という順で生徒が、ここに集まって備え付けられた学習参考書を引出して、予習復習がはじめられ、終るとグランドえ、備品の運動具を持ち出して遊ぶことになっている。この辺一帯は石狩炭田で多くの会社の炭山が並んでいるが、不良少年少女もここから幾多現はれてタイホされている。しかし、おかしいことにこのM炭山からは一人のタイホ者も出ないと、警察では首をかしげているのは、興味のもてる材料でないかと思う。

教員養成と教育の実際

結婚までという助教論が、八割近い率を占めることは由々しい問題で、その上保育料六百円平均で、東京都の半額になり、教員の給与も小学校に比較して、甚だしい差異をみせているのは、これまた厄介な問題をもっている。

従って、短大の保育科とか教員の養成所に入学するものが、極めて少いということになっている。本道の幼稚園は、非常にすぐれた少数の、しかも経験の古い教論達で、助教論達を引上げてかろうじて幼児教育を行っている現状で、危険な線をはらんでいて、一歩あやまると托児所と化すおそれなしといえない。

何としても、専門教育をうけた教員が多数ほしいものである。

幼児の骨格形成がわるく、クル病と認められるものが多い。北海道の幼稚園は、食物と日光浴には特別の注意を払はなければならない。ことに冬期の教育は問題で、しめ切った室内で換気も考えない幼稚園があったとすれば、何のための教育かと言いたい位で、本州の暖い地方が羨やましい次第である。

自然観察の設備が少く、お遊びの道具が少く、しかもこれらが不整地のままになっていることは、これまた軽く見るわけにいかないではないか。北国人特有のネバリとキマジメさで、困難を克服してゆきたいものである。

（北海道庁総務部人事課）